

## 「52週で憶える最重要英語基本動詞 600」[試行版]

## — 凡例 —

## 1 語法・用法に関して

**1-1** 連語情報を語義の後ろに角ブラケット([ ])に入れ、それに対応する訳語が語義の前に示してあります

例 : leave    OをCの/Oを…するがままにする [OC/O *doing*・to do]

**1-2** その訳語に( )がある場合は、その要素がなくても成立する表現であることを示し、( )がない場合は必ず必要な要素－義務的な要素－であることを示します

例 : stand    (...に)ある・位置している [+副(場所)]

**1-3** 自動詞・他動詞の区別は( )の有無で分かります

例 : reflect    (Aについて)省察する [on A]

例 : deceive    Oを騙す

**1-4** 自動詞・他動詞の両方ある語で、語義が同じ語はOが( )で括ってあります

例 : see    (Oを)見る

**1-5** 自動詞・他動詞で訳語が変わる語は、併記して示してあります

例 : change    Oを変える・変わる

## 2 語義に関して

**2-1** 語義に追加情報が必要なもので、訳語としてそのまま通用する情報は、( )を用いて語義を補って説明してあります

例 : feel      ○と(感じて)思う

**2-2** 同一の語義だが、二つ以上訳語を与えた方がよいものはナカグロ(・)で結んで示してあります

例 : assume      ○をとる・帯びる[態度・性質を]

**2-3** 訳語としてそのまま通用しない追加情報は、ギョメ記号(《 》)を用いて追加情報として説明してあります

例 : start      ○をやり出す/Aに取りかかる・着手する  
[on·in A]《動作・運動や活動などを(とりわけ急に)開始し、以後それが持続していることを表して》

例 : forget      ○を忘れる[<人>が]

**2-4** 同一の語義だが、日本語として意味を分けて確認しておいた方がよいものはスラッシュ(/)で結んであります

例 : reflect      ○を反射する/○を反映する

**2-5** 別の意義素ないしは別の語義さらには別の語法として分けた方がよいものは(1)(2)...として、明確に異なった語義・用法であることを示します

例 : assume      (1)○と前提する/○と思い込む  
                    (2)○を引き受ける[責任を]  
                    (3)○をとる・帯びる[態度・性質を]

### 3 語法・文型表記の略語に関して

#### 3-1 動詞

<i>do</i>	任意の動詞の原形
<i>does</i>	任意の動詞の現在形
<i>did</i>	任意の動詞の過去形
<i>to do</i>	任意の動詞の不定詞
<i>do-ing</i>	任意の動詞の動名詞
<i>doing</i>	任意の動詞の現在分詞
<i>done</i>	任意の動詞の過去分詞

#### 3-2 記号

S	主語
V	動詞
O	目的語
C	補語
X	その他の任意の要素
that-節	接続詞 that に導かれる節
wh-節	疑問詞節と whether 節
A/B	任意の名詞
X/Y	任意の文法的に対等な要素
SVX	完全文(文の要素が欠落していない節・文)
(S)V(X)	不完全文(文の要素が欠落した節・文)
<i>oneself</i>	再帰代名詞(人称代名詞の再帰代名詞)
A's	所有格
=	同意表現
≐	近似表現
⇔	反意表現
<!>	注意事項
*	追加事項

### 3-3 品詞

動	動詞
助	助動詞
名	名詞
代	代名詞
形	形容詞
副	副詞
接	接統詞
関	關係詞
不定詞	不定詞
動名詞	動名詞
分詞	分詞

### 3-4 句型

第 1 句型	SV
第 2 句型	SVC
第 3 句型	SVO
第 4 句型	SV(A)O SVO to A SVO for A
第 5 句型	SVOC make OC think O (to be) C regard O as C allow O to <i>do</i> see O <i>do/doing/done</i> have O <i>do/done</i>
句動詞	SV+副 SV+副+O = SVO+副 SV+前+A
分離句動詞	SVO+前+A